

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立石山小学校

調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

問題別調査結果 概要

- ◇今年度は、国語・算数・理科の3教科で実施され、国語では、正答率が全国平均と近い結果となりました。
- ◇国語の「読むこと」に関する問題では、滋賀県正答率を上回る問題もあるなど、「話すこと・聞くこと」「書くこと」と比べ、力を付けています。必要な情報を見付ける力、大まかな文章内容を把握する力などを身に付けてきています。書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えるとといった「書くこと」に関する出題については、正答率が低いものもあり、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意して書けるよう指導を工夫していく必要があります。
- ◇算数の「数と計算」領域においては、正答率が全国平均を上回る問題がありました。示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかを問われた問題では、正答率は全国平均を大きく上回りました。しかし、「測定」に関する問題では、全国平均を下回る結果となったものもありました。伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかについて理解を深めていく必要があります。
- ◇理科の「エネルギー」を柱とする領域では、正答率が滋賀県平均と近い結果となりました。また、電気の回路の作り方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題では、正答率が全国平均を大きく上回っていました。しかし、顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる問題では、全国平均を大きく下回り、授業で体験する場を今まで以上に設定する必要があります。
- ◇3教科ともに、無回答率は全国平均よりも大幅に下回っていました。しかし、記述式の回答を求められる問題は、選択式や短答式の問題に比べて正答率は低くなっています。どちらの教科においても、問われることに対して設問の意図を読み取り、書き表す表現力をさらに身に付ける必要があります。

児童質問紙調査

全国平均と比較して良い傾向がある主な質問項目	<ul style="list-style-type: none"> ◇先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか。 ◇困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。 ◇自分には、よいところがあると思いますか。 ◇学校に行くのは楽しいと思いますか。 ◇友達関係に満足していますか。 ◇自分と違う意見について考えるのは楽しいですか。
全国平均と比較して課題が見られる主な質問項目	<ul style="list-style-type: none"> ◇平日に、学校以外でどれくらいの時間、勉強しますか。 ◇休日に、どれくらいの時間、勉強しますか。 ◇ICT機器を使って発表のスライドを作ることができますか。 ◇5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器の使用頻度。

指導の充実に向けて

- ・学力学習状況調査の結果を踏まえ、全国平均に比べ無回答の児童が格段に少なかったことは、本校校内研究のテーマとして昨年まで取り組んだ「書くこと」を重点的に指導してきた結果でもあります。今後も、朝の学習時間を使い、児童が「書くこと」に抵抗感を持つことなく、自分を表現できるように学年の発達段階に応じて系統立てた指導をしていきます。
- ・友達との意見や考えを交流することを前向きに捉えている児童が多く見られます。一昨年度から全教職員が取り組んでいる学習スタイルを継続し、授業の中で児童がインプットしたことをペア学習や小グループでの交流を通じて周りの児童にアウトプットすることにより、児童の話し合いが深まるような場面を取り入れ、知識や理解の定着を図ります。
- ・保護者の皆様と児童の学習や生活の状況について、丁寧に連絡、相談し、ともに同じ方向性をもって児童を支えることができるように努めます。

